Focusrite Control ユーザーガイド(Clarett USB 版)





目次

はじめに
システム要件
ソフトウェアのインストール
Clarett USB ミキサー – 基本原則5
Mixing & Routing $^{\sim}-\dot{\nu}$
ミキサーの構成とコントロール
Output セクション
Input セクション
Clarett USB 機器で使用できるハードウェア入力13
プリセットの使用
Direct Routing
2 Channel Analogue
8 Channel Analogue
Digital
Empty
使用例
レコーディングとトラッキング
レコーディングとオーバーダビング
スタンドアロンのミキサーとしての使用23
スナップショット機能
Device Settings ページ
AIR
Inst/Line
モニターコントロール
サンプルレート
クロックソース
トラブルシューティング
著作権表示と法定通知

はじめに

本文書は Focusrite Control のユーザーガイドです。Focusrite Control は、オーディオインターフェース Focusrite Clarett USB 系列と併用するために開発されたソフトウェアアプリケーションです。

Clarett USB インターフェースを使用する際には、本ユーザーガイドと製品自体のユーザーガイドの両方が必要となります。製品のユーザーガイドは <u>http://uk.focusrite.com/downloads</u> からダウンロードすることができます。

プロフェッショナルなオーディオ性能を誇る Clarett USB と、シンプルで直観的なインターフェースを備えた Focusrite Control をお好みのデジタルオーディオワークステーション(DAW)と一緒に使用することで、非常に多目的なコンピュー タレコーディングシステムが実現します。

Focusrite Control は直観的に使用できるよう極限まで設計されていますが、本ガイドを読んでいただくことにより、製品と一緒に使用するソフトウェアの特徴を十分理解していただくことで機能を最大限活かすことができます。

重要

Clarett USB インターフェースシリーズは3つのモデルで構成されますが、全ての製品で Focusrite Control を使用します。各モデルの基本的な違いは、搭載されている入出力の数と Focusrite Control から直接コントロールできる機能の数です。

Focusrite Control は、お使いのコンピュータに接続されている Clarett USB 製品を認識し、それに応じ た構成が行われます。そのため、お使いの Clarett USB 製品に対応した入出力のみが画面上に表示され ます。

自動的に認識するため、本ユーザーガイドは Clarett USB シリーズの全モデルに適用されます。複数のモ デルのスクリーンショットを本ガイドに掲載すると混乱を招く恐れがあるため、Clarett 8Pre USB を本マニュ アルの参考モデルとしています。お使いの Clarett が 8Pre USB の場合、本ガイドに掲載されているスクリー ンショットとお使いのスクリーンに表示されるものは完全に一致します。別のモデルを使用されている場合、 スクリーン表示での大きな違いは、使用可能な入出力とソフトウェア制御機能の数のみです。

システム要件

重要

Focusrite Control と Clarett USB 全製品に対応するコンピュータとオペレーティングシステムに関する最 新の情報は、以下のリンク先をご覧ください。 www.focusrite.com/downloads/os

ソフトウェアのインストール

Clarett USB が必要とする全てのソフトウェア(Focusrite Control を含む)には強力かつ便利な追加機能が含まれて おり、Focusrite ウェブサイト(<u>www.focusrite.com/register</u>)よりダウンロードが可能です。Clarett USB 本体に 付属する Getting Started Guide には、上記のウェブアドレスで入力する必要のある認証コードが含まれます。この手 順を踏んでいただくことで、最新のソフトウェアバージョンが確実にインストールされます。

- 1. お使いのブラウザで、<u>www.focusrite.com/register</u> にアクセスします。
- 画面上の指示に従って、バンドルコードを入力します。バンドルコードは、Clarett USB 製品に同梱の「Getting Started Guide」(英語)の裏面に記載されています。
- 3. 本体のシリアル番号を入力します。こちらも「Getting Started Guide」(英語)の裏面に記載されています。
- 4. すると「My Product」ページにアクセスできるようになるので、アクティベーションコードを使用した Focusrite Control のダウンロードが可能となります。
- 5. ご使用のインターフェースに必要なドライバを含む Focusrite Control をダウンロードし、インストールします。 面上の全ての指示に従います。
- 6. インストールが完了したら、コンピュータを再起動します。
- 7. 再起動後、Clarett USB インターフェースを USB ケーブルでコンピュータに接続します。

本ガイドには、2017 年 11 月時点での正確な情報が記載されています。ただし、弊社はカスタマーサービスの向上に常に取り組んでいるため、 この手順は変更されることがあります。内容に変更があると思われる場合は、<u>www.focusrite.com/get-started</u>で最新の情報をご確認ください。

Clarett USB ミキサー - 基本原則

Clarett USB インターフェースには内部オーディオミキサーが備わっています。このミキサーを使用して、お使いのシステムで様々なオーディオをソースとしたミックスを複数作成できるほか、それをインターフェースの出力部に送ることができます。 これらのソースには、DAW にレコーディングしたトラックのほかに、Clarett USB の入力部に接続されているソースも含まれます。Focusrite Control を使い始める前に、このミキサーの基本原理を理解することが重要です。

オーディオミキサーの基本的な概念に関しては既にご存知の方も多いかと思いますが、入力された信号数はステレオペ アとして組み合わされることがある為、その場合には入力数より少ない出力数となります。伝統的なアナログハードウェア ミキサーには、たくさんの入力チェンネルが備わっており、それぞれに縦フェーダーや様々なコントロール部が搭載されて います。また、チャンネルごとに備わったスイッチを切り替えることで信号が送られる場所を指定します。これを「ルーティ ング」と呼びます。

Clarett USB に備わったミキサーはこのような一般的なミキサーと同じ仕組みです。インターフェース自体の様々な入力と、 すでにレコーディングされた DAW トラックがミキサーの入力となり、出力はインターフェース自体の出力部に対応します。 以下の図は、Clarett 8Pre USB の例でこの原理を示しています。





Focusrite Control ではコンピュータスクリーン上でミキサーが視覚的に表示されます。Focusrite Control の大きな利 点は、実際に使用したい入力のみ表示できる点です。

Mixing & Routing ページ



お使いのコンピュータに Focusrite Controlをインストールすると、 ドックまたはデスクトップ上に FC アイコンが 配置されます。

アイコンをクリックして Focusrite Control を起動します。下図のような画面が表示されます。

	Focus	rite Control	
● Sync	Device Settings	Output Routing	Focusrite
OUTPUTS			
Monitor Outputs 1-2 Playback 1-2			
MUTE DIM STEREO	+ Focus	rite Control	
	Clarett 8Pre USE	3 connected	
Line Outputs 3-4		back	
Playback 3-4	Load from device	New monitor mix	
Line Outputs 5-6		Direct Routing System Playback 2 Channel Analogue	
Playback 5-6	O Don't show this again	<u>?)</u>	
MUTE STEREO		0	
Line Outputs 7-8 Playback 7-8			

注意:メインウィンドウの他に、コンピュータが適切にハードウェアに接続されていることを確認するダイアロ グボックスが表示されます。このダイアログボックスには、すぐにソフトウェアを設定または再設定できるオプショ ンも含まれています。これらに関しては本ユーザーガイドで後述されるので、Focusrite Control を初めて使 用する場合にはこのダイアログボックスを閉じても問題ありません。

注記

上記の図ではなく、「ハードウェアが接続されていません」という警告メッセージが表示された場合、コンピュー タがハードウェアとの接続を確認できなかったことを意味します。

その場合は以下の事項を確認してください。

- USB ケーブルの両端が適切に接続され、ケーブルまたはコネクタのどこにも損傷がないこと。
- Clarett USB インターフェースの電源が入っていること。

また、スクリーン左上の Sync が緑色に点灯することで、Clarett USB デバイスが有効なクロックソースにロックされてい ることを示します。詳細はページ 28 をご覧ください。

注記

ソフトウェアを効果的に使用していただくために、Focusrite Control 上でツールティップスをご確認いただけ ます。各部でカーソルをかざすと、そのコントロール部が実行する内容がウィンドウ下部のステータスバーに 表示されます。



[File] > [Presets] > [Empty] の順にクリックします。一番初めはあらかじめ用意されているプリセットのミキサー を使用すると良いでしょう。[Empty]を選択すると、空白のテンプレートが読み込まれるため入力チャンネルが表示され ません。

Focusrite Control には **Device Settings ページ**と **Mixing & Routing ページ**の 2 ページしかありません。こ れらはウィンドウ上部のタブで切り替えられます。ほとんどの場合、**Mixing & Routing** ページを使用することになりま す。

Mixing Routingページは以下の3つのエリアに分かれています。

- OUTPUTS:画面左側で縦方向に配置されています。
- HARDWARE INPUTS :右側の上半分に配置されています。
- SOFTWARE(DAW) PLAYBACK:右側の下半分に配置されています。

Output セクション

常に表示されている Output セクションから見てみましょう。

OUTPUTS はスクロール可能な縦のバーで構成されています。お使いのインターフェースにスクリーンで一度に表示で きる数以上の出力がある場合、下方向にスクロールして他の出力を確認します。各出力(ステレオモードの場合は出力 ペア)にはそれぞれ以下の機能が備わっています。



- 1. 出力識別子(Line Outputs 3-4 など)とアイコン 出力名が表示されるとともに、アイコンが表示されます。 スピーカー、ヘッドフォン、ジャックプラグ、フォノプラグ、Toslink のアイコンが用意されています。
- 2. ユーザー名 このフィールドをクリックして、出力先などの名前を最長 11 文字で入力できます。
- 3. 現在のソース このフィールドには、現在出力されているソース名が表示されます。多くのセットアップでは、特に Focusrite Control のプリセットを使用している場合、一種類の入力または一組のステレオペア入力がデフォルトとなります。このフィールドをクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、以下のいずれかを選択できます:
 - Playback (DAW) DAW トラックを直接出力にルーティングします (出力がステレオの場合はペア)。



 Custom Mix – 選択した出力に対して利用可能な全ての入力(ハードウェアと DAW からの入力の両方)を 使ってカスタムでミックスを作成できます。注意:5つのカスタムミックスがすでに割り当てられている場合はこの オプションを利用できません。 出力ソースの選択を変えると、ウィンドウ右側にルーティングを示す図が表示されます。1対1のシンプルなルーティングの場合、グラフィックは以下のようになります。



- フェーダー フェーダーを使用して出力部のレベルを調節します。デフォルトではすべての出力レベルが最大に 設定されていますのでご注意ください(ユニティーゲイン)。フェーダーのつまみが緑色の場合、出力レベルの コントロールが Clarett USB フロントパネルの MONITOR コントロールに割り当てられます。この割り当ては Device Settings ページで行うことができます。ページ 26 を参照してください。
- 5. MUTE このボタンをクリックして出力のミュートのオンオフを切り替えます。
- 6. **STEREO** 出力をステレオペアのどちらか一方またはモノラル出力に割り当てます。ステレオモードでは、すべての出力機能がステレオペアを形成する両方の出力に適用されます。
- メーター:出力でのオーディオレベルを示すバーグラフメーター(ステレオ操作用に構成される場合2つ)が表示されています。出力レベルがオーバーロードしクリッピングしてしまっている場合、赤く表示されます。このアイコンはメーターバーのエリアをクリックするか、Fileメニューの Clear all meters を選択することで非表示にできます。

上記の機能と同時に、Monitor Outputs にはさらに **DIM** ボタンが備わっています。有効にすると、信号レベルが 18dB 分下がります。

Input セクション

入力セクションは HARDWARE INPUTS と SOFTWARE (DAW) PLAYBACK の二つの部分に分かれていま す。それぞれの部分で、選択された出力でミックスされる入力信号をコントロールします。

それぞれの出力で異なるミックスを構成でき、Clarett USB の内部ミキサーで可能な限り多くのミックスを作ることが可能 となります。それぞれの演奏者が個人のニーズに合わせた独自のミックスを構成することができるため、この機能は複数 の人数でレコーディングを行う際非常に便利です(人数分のヘッドフォンとヘッドフォンアンプがあることを前提としていま す)。該当する出力タブをクリックして入力チャンネルを表示したいミキサーを選択します。

重要

ミキサーの各出力を異なる入力セットに対して作成することはできません。使用中の入力チャンネルのセットは Clarett USB デバイスのすべての出力に適用されます。ただし、不要なチャンネルは簡単にミュートにできるた め、それぞれのレベルに設定された個々のミックスを作成することは可能です。

状況によっては、前述の例でのようにシンプルな1対1のデフォルトルーティングを Focusrite Control でセットアップす ることが適切な場合もあります。DAW の出力が Clarett USB インターフェースでのハードウェア出力に直接ルーティング される場合です(ユニット内でミキシングを行わない場合など)。しかし、カスタムミックスを作成する場合には、まずミック スを送りたい出力の出力タブで現在のソースのボタンをクリックしてから、**Custom Mix** を選択します。そうすることで 出力用に現在固定されているルーティングが消去され、入力ミックスのエリアが表示されます(**Empty** プリセットが本マ ニュアルで前に選択されている場合、このエリアは空欄となります)。



ここで、2 つの「+」タブをクリックすると、選択した出力を送るミキサーを構成することができます。構成が行われると、 入力セクション半分のHARDWARE INPUTSに Clarett USB の入力リストが全て表示されます(お使いの Clarett USB デバイスで使用可能なハードウェア入力の詳細はページ 13 を参照してください)。SOFTWARE(DAW) PLAYBACK エリアでは、ボックス内に使用可能な DAW トラックのリストが表示されます。この手順を繰り返すことで、 お使いの Clarett USB ハードウェアのチャンネルを最大数追加することができます。注意:チャンネル数がウィンドウの サイズを超えた場合、ウィンドウのリサイズやスクロールバーを使用する必要があります。



注意:両方のボックスでは各入力が個別のモノラル、またはステレオペアの半分として2回リストされます。入力のステレオペアを選択すると、ステレオ入力チャンネルが作成されます。



上記の例では、幾つかの DAW トラックがすでにレコーディングされ、さらに 2 つの追加のトラックをレコーディングしなが ら演奏者の一人に対してステレオフィードバックを作成し、オーバーダブを行う場合の設定が示されています。 各入力チャンネルには以下の特徴があります。



- 1. 入力識別子 チャンネルに入力されている実際の入力です。
- 2. ユーザー名 このフィールドをクリックして、楽器の名前などを最長 11 文字で入力することができます。
- フェーダー ミックスの信号レベルを調整するためのフェーダーです。注意:デフォルトではすべてのフェーダーが OdBに設定されていますが、フェーダーの最大値は+6dBです。フェーダーのつまみをダブルクリックするとフェー ダーが OdBに設定されます。
- 4. フェーダー値 現在のフェーダーの数値を示します。
- 5. M このボタンをクリックしてチャンネルのミュートのオンオフを切り替えます。
- 6. S ソロボタン。このボタンをクリックすると、その時点で使用されている信号の代わりにチャンネルの信号がモニター出力1と2に直接ルーティングされます。この機能を使用するとエンジニアが他のトラックを気にすることなく楽器のレコーディングを行えるため、レコーディング中に大変役立つ機能です。ソロ機能は他の信号のルーティングを変更したり、DAW にレコーディングされている信号を妨害することはありません。
- パンのスライダー。このコントロールは、ミックスがステレオ出力にルーティングされている時にのみ利用できます。 デフォルトでは中央に設定されており、チャンネルの信号はステレオペアの両方の出力に同じレベルで送られま す。スライダーをどちらかの方向に動かすと、一方の信号よりも高い信号をもう一方の出力に送り、個々の楽 器をステレオイメージ上で配置できるようにします。フェーダーのつまみをダブルクリックするとフェーダーが 0dBに 設定されます。
- 信号レベルメーター。プリフェーダーなどチャンネルに送られる信号レベルを示します。dBFS単位で測定され、 最大値は 0dBFSとなります。0dBFSの場合、クリッピングを起こしており不快な音になってしまうためこちらで必 ずレベルを調節しなければなりません。ステレオチャンネルの場合、フェーダーの両隣に 2 つのメーターが表示 されます。
- 9. ピークレベルディスプレイ 達した信号レベルの最大測定数値。ステレオチャンネルでは2つのディスプレイが 表示されます。
- 10. クローズ バツ印をクリックすることで、ミックスから信号を、スクリーンからチャンネルを削除します。

Clarett USB 機器で使用できるハードウェア入力

Clarett USB インターフェースには、幅広いオーディオ入力が備わっていますが、設定されたサンプルレートによって使用可能な入力数が決まります(詳細はページ 28 を参照してください)。サンプルレートを2 倍にすると、使用できる ADAT チャンネルの数が半分になります。以下の表は異なるサンプルレートで使用可能な入力の詳細を示しています。

44.1 kHz - 48 kHz			
Input	Clarett 8Pre USB	Clarett 4Pre USB	Clarett 2Pre USB
1	アナログ入力1	アナログ入力 1	アナログ入力 1
2	アナログ入力 2	アナログ入力 2	アナログ入力 2
3	アナログ入力3	アナログ入力3	S/PDIF 入力 1*
4	アナログ入力 4	アナログ入力 4	S/PDIF 入力 2*
5	アナログ入力 5	アナログ入力 5	ADAT 入力 1
6	アナログ入力6	アナログ入力6	ADAT 入力 2
7	アナログ入力 7	アナログ入力 7	ADAT 入力 3
8	アナログ入力 8	アナログ入力8	ADAT 入力 4
9	S/PDIF 入力 1	S/PDIF 入力 1	ADAT 入力 5
10	S/PDIF 入力 2	S/PDIF 入力 2	ADAT 入力 6
11	ADAT 入力 1	ADAT 入力 1	ADAT 入力 7
12	ADAT 入力 2	ADAT 入力 2	ADAT 入力 8
13	ADAT 入力 3	ADAT 入力 3	
14	ADAT 入力 4	ADAT 入力 4	
15	ADAT 入力 5	ADAT 入力 5	
16	ADAT 入力 6	ADAT 入力 6	
17	ADAT 入力 7	ADAT 入力 7	
18	ADAT 入力 8	ADAT 入力 8	

*Clarett 2Pre USB のオプティカル S/PDIF 入力。

88.2 kHz - 96kHz			
Input	Clarett 8Pre USB	Clarett 4Pre USB	Clarett 2Pre USB
1	アナログ入力 1	アナログ入力 1	アナログ入力 1
2	アナログ入力 2	アナログ入力 2	アナログ入力 2
3	アナログ入力 3	アナログ入力3	S/PDIF 入力 1*
4	アナログ入力 4	アナログ入力4	S/PDIF 入力 2*
5	アナログ入力 5	アナログ入力 5	ADAT 入力 1
6	アナログ入力6	アナログ入力6	ADAT 入力 2
7	アナログ入力 7	アナログ入力 7	ADAT 入力 3
8	アナログ入力 8	アナログ入力 8	ADAT 入力 4
9	S/PDIF 入力 1	S/PDIF 入力 1	
10	S/PDIF 入力 2	S/PDIF 入力 2	
11	ADAT 入力 1	ADAT 入力 1	
12	ADAT 入力 2	ADAT 入力 2	
13	ADAT 入力 3	ADAT 入力 3	
14	ADAT 入力 4	ADAT 入力 4	

*Clarett 2Pre USB のオプティカル S/PDIF 入力。

	176.4kHz - 192kHz			
Input	Clarett 8Pre USB	Clarett 4Pre USB	Clarett 2Pre USB	
1	アナログ入力 1	アナログ入力 1	アナログ入力 1	
2	アナログ入力 2	アナログ入力 2	アナログ入力 2	
3	アナログ入力3	アナログ入力3		
4	アナログ入力 4	アナログ入力4		
5	アナログ入力 5	アナログ入力 5		
6	アナログ入力6	アナログ入力6		
7	アナログ入力 7	アナログ入力 7		
8	アナログ入力 8	アナログ入力 8		
9	S/PDIF 入力 1	S/PDIF 入力 1		
10	S/PDIF 入力 2	S/PDIF 入力 2		

プリセットの使用

Focusrite Control には、素早くレコーディングタスクに取り掛かれるよう便利なプリセットが幾つか用意されています。 プリセットを選択すると、使いやすく組み合わされた入力チャンネルによって自動的にミキサーが構成されます。

プリセットは、File メニューのドロップダウンリストから選択します。Clarett 8Pre USB で使用可能なプリセットを以下に示します。



Direct Routing

複雑なミキシングセッションでは、最終ミックスを実際のミキシングコンソールで個別に行うことが望ましい場合があります。 ダイレクトルーティングプリセットでは DAW の再生トラックを番号順にすべての使用可能な Clarett USB の出力へルー ティングし、このようなタスクに対応します。

•••	Focusrit	te Control	
⊙ Sync	Device Settings	Mixing & Routing	Focusrite
OUTPUTS			
Nonitor Outputs 1-2 Playback 1-2			Analogue 1 2 1+2 3 4 3+4 6 6 5+0
MUTE STEREO			7 8 7+8
			S/PDIF
		Software Playback	1 2 1+2
Line Outputs 3-4		A A	ADAT
Playback 3-4		Y Y	1 2 1+2
MUTE STEREO			
		Analogue Output	Software Playback
Line Outputs 5-6			1 2 1+2
Playback 5-6			3 4 3+4
MUTE STEREO			5 6 5+6
			7 8 7+8
			9 10 9+10
Line Outputs 7-8			11 12 11+12
Playback 7-8			13 14 13 + 14
MUTE STEREO			15 16 15 + 16

Clarett USB シリーズのダイレクトルーティング接続は以下の通りです。

	44.1 kHz - 48 kHz			
DAW トラック	Clarett 8Pre USB	Clarett 4Pre USB	Clarett 2Pre USB	
1	アナログ出力 1	アナログ出力 1	アナログ出力 1	
2	アナログ出力 2	アナログ出力 2	アナログ出力 2	
3	アナログ出力 3	アナログ出力 3	アナログ出力 3	
4	アナログ出力 4	アナログ出力 4	アナログ出力 4	
5	アナログ出力 5	アナログ出力 5		
6	アナログ出力 6	アナログ出力 6		
7	アナログ出力 7	S/PDIF 出力 1		
8	アナログ出力 8	S/PDIF 出力 2		
9	アナログ出力 9			
10	アナログ出力 10			
11	S/PDIF 出力 1			
12	S/PDIF 出力 2			
13	ADAT 出力 1			
14	ADAT 出力 2			
15	ADAT 出力 3			
16	ADAT 出力 4			
17	ADAT 出力 5			
18	ADAT 出力 6			
19	ADAT 出力 7			
20	ADAT 出力 8			

	88.2kHz ~ 96kHz			
DAW ト ラ ック	Clarett 8Pre USB	Clarett 4Pre USB	Clarett 2Pre USB	
1	アナログ出力 1	アナログ出力 1	アナログ出力 1	
2	アナログ出力 2	アナログ出力 2	アナログ出力 2	
3	アナログ出力 3	アナログ出力 3	アナログ出力 3	
4	アナログ出力 4	アナログ出力 4	アナログ出力 4	
5	アナログ出力 5	アナログ出力 5		
6	アナログ出力 6	アナログ出力 6		
7	アナログ出力 7	S/PDIF 出力 1		
8	アナログ出力 8	S/PDIF 出力 2		
9	アナログ出力 9			
10	アナログ出力 10			
11	S/PDIF 出力 1			
12	S/PDIF 出力 2			
13	ADAT 出力 1			
14	ADAT 出力 2			
15	ADAT 出力 3			
16	ADAT 出力 4			

	176.4kHz ~ 192kHz			
DAW トラック	Clarett 8Pre USB	Clarett 4Pre USB	Clarett 2Pre USB	
1	アナログ出力 1	アナログ出力 1	アナログ出力 1	
2	アナログ出力 2	アナログ出力 2	アナログ出力 2	
3	アナログ出力 3	アナログ出力 3	アナログ出力 3	
4	アナログ出力 4	アナログ出力 4	アナログ出力 4	
5	アナログ出力 5	アナログ出力 5		
6	アナログ出力 6	アナログ出力 6		
7	アナログ出力 7	S/PDIF 出力 1		
8	アナログ出力 8	S/PDIF 出力 2		
9	アナログ出力 9			
10	アナログ出力 10			

プリセットで従来のアナログコンソールを最大限にご利用いただくには、適切な ADAT 搭載の D/A コンバータおよび S/PDIF 入力が備わった 2 チャンネル D/A コンバータが必要です。ただし、最新のデジタルミキサーの多くは ADAT お よび S/PDIF 信号とアナログソースを直接受け取ることができます。

2 Channel Analogue

これは Clarett USB をアナログレコーディングの「フロントエンド」として使用する際に使用するプリセットです。このプ リセットでは、アナログ入力 1 と 2 を HARDWARE INPUT として、DAW トラック 1 と 2 を SOFTWARE(DAW) PLAYBACK セクションにおいてステレオチャンネルとして利用可能となるよう Clarett USB のルーティングを構成しま す。

例えば Clarett 8Pre USB では常に、これらの入力チャンネルがまとめられてモニター1と2、ライン出力7と8、9と 10 にステレオペアとしてルーティングされます。本モデルでは、ヘッドフォン出力1と2は、フロントパネルのそれぞれのヘッ ドフォンレベルのコントロールによってそれぞれライン出力7/8 および9/10 に従います。この設定では、既に DAW にレ コーディングされたドラムトラックにギタリストx1、ボーカリストx1の音源をレコーディングする際に理想的です。ドラムとのミッ クスをそれぞれ個別に行うことが可能です。



レコーディングするトラックが増えた場合には、DAWの再生トラックをミックスに追加するだけです。

Clarett USB のその他の全ての出力は、ページ 16 のダイレクトルーティング一覧に従って、対応する DAW の再生ト ラックから直接供給されます。

8 Channel Analogue

バンドのレコーディングを始める際にはこのプリセットを使用すると良いでしょう。 Clarett 8Pre USB では、このプリセット によりハードウェアアナログ入力それぞれに対し1つずつ、計8つのミキサーチャンネルが使用でき、DAW トラック1と2も、 ステレオチャンネルとして使用ができます。



2 Channel Analogue プリセットでは、まとめられたミキサーの出力がモニター出力1と2、および、ライン出力7~10 にステレオペアとしてルーティングされます。

Clarett USB のその他の全ての出力は、ページ 16 のダイレクトルーティング一覧に従って、対応する DAW の再生ト ラックから直接供給されます。

Digital

このプリセットは、Focusrite Clarett OctoPre などの ADAT 搭載の別のマイクプリアンプを使用する際に使用すると便利です。Clarett 8Pre USB と併せて使用することで、10 個のデジタル入力チャンネルが使用できます。そのうち 8 個は ADAT 入力ポートから、2 個は S/PDIF 入力から供給されます。DAW トラック 1 と 2 も、ステレオチャンネルとして使用できるようになります。前述のアナログプリセットの説明と同様に、まとめられた入力は同じ出力ペアにルーティングされます。



Clarett USB のその他の全ての出力は、ページ 16 のダイレクトルーティング一覧に従って、対応する DAW の再生ト ラックから直接供給されます。

Empty

このプリセットは、ユーザーが必要に応じて独自の構成を構築できるよう既存のミキサーの設定を消去する便利な機能です。

Clarett 8Pre USB では、モニター出力 1 と 2 およびライン出力 7 ~ 10(ヘッドフォン出力と並列になります)がカスタ ムのミックスを受信するよう設定されます。その他すべての出力は、他のプリセット同様に個別の DAW トラックから供給 されます。

使用例

レコーディングとトラッキング

Focusrite Control を使用すれば、バンドのレコーディングも自身のレコーディングも、そのプロセスは基本的には同じです。スクリーンに表示されるミキサーチャンネルの数のみが変化します。

Clarett USB にレコーディングしたい楽器を INST または LINE 入力のどちらかを使用して接続し、アコースティック楽器 とボーカルは、マイクを MIC 入力に接続して録音を行います。楽器やマイクは、それぞれ USB ケーブルを経由してユー ザーの DAW にルーティングされレコーディングされます。デフォルトでは、ハードウェア入力と同じ数のトラックにレコーディ ングされます。Clarett USB のフロントパネルに備わったゲインコントロールでレコーディングレベルの調整が行えます。 ユーザーの希望に応じて DAW でトラック割り当てを変更することが可能です。

Focusrite Control を使用して、レコーディングされているものすべてをモニターミックスすることが可能です。モニターまたはヘッドフォンで聞くミックスは、レコーディングされた信号レベルとは完全に独立したものにカスタムすることができます。

Focusrite Control の全てのチャンネルはフェーダーのゼロ位置から開始されるので、全ての接続が完了するとただちに ラフミックスを聞くことができます。その後でユーザーの希望に合わせてミックスの構成を変更することも可能です。



いずれのプリセットを読み込んだ場合にも、ヘッドフォン出力から聞こえるミックスは、メインモニターのミックスと同じもの です。ただし、それらは独立しており個別にコントロールが可能です。例えば、演奏者のフォールドバック用にヘッドフォ ンを使用したい場合、様々なミックスを設定する必要があるはずですが、ヘッドフォンの出力タブ(Clarett 8Pre USB の例では Line Out7 ~ 8)を選択するだけでミックスを変更することができます。同じ要領で、さらに Line Out タブを 使用して Custom Mix を選択することで、他の演奏者用に別のミックスを作成することができます。

レコーディングとオーバーダビング

オーバーダビングとは、すでに配置したトラックを聞きながらマルチトラックのレコーディング音源に楽器を追加するプロセ スのことです。

Focusrite Control では、オーバーダビングを行うための構成を簡単に行うことができます。



トラッキングの例と同様に、モニター出力とヘッドフォン出力の両方から聞こえる最初のミックスは、既にレコーディングし たトラックすべての「ラフ」ミックス(フェーダーがゼロ位置)の状態です。希望に応じて、ヘッドフォンから聞こえるオー バーダビング中の楽器やレコーディング済みの他のトラックの音量を調整することが可能です。

ヒント: レコーディング済みのトラックは、Focusrite Control の **Software Playback1 ~ 2** の DAW マスター出力(1 ~ 2) から出力されます。 プロデューサーがレコーディング済みの音源のレベルを演奏者用に調整したい場合は DAW 上で行い、 プロデューサーが DAW のミックスを変更したくない場合は別の出力から送って Focusrite Control 内でレベルの調整をすることが可能です。

スタンドアロンのミキサーとしての使用

一度 Clarett USB の内部ミキサーを Focusrite Control で構成すれば、USB ケーブルを抜いて機器の電源を切っても、 その構成自体が機器内に記憶されます。 つまり、 コンピュータに接続することなく優れた Clarett USB のアナログ性能 をライブ現場で実現することができるのです。

この例では、ステージ上のキーボードのミキサーとして使用しています。複数のキーボードを Clarett USB の入力部に接続してまとめてモニター出力に送り、ミックスすることが可能です。それぞれのキーボードの相対的なレベルは、フロント パネルで調整することができます。



このような場合、ミキサーを上図のように設定します。Scarlett は最後の設定を記憶するため、一度 Clarett USB の 電源を切っても会場でスタンドアロンでの使用が可能です。

スナップショット機能

Clarett USB インターフェース内のミキサーは Focusrite Control で行われた最後の設定を常に記憶します。しかし、 似たようなプロジェクトや別の互換性のあるハードウェア機器で作業する場合、セッションの設定を保存したうえで、後か らそのミキサーのレイアウト、フェーダー、ミュート、およびパンの設定等に戻したい場合もあります。

そのような場合には、Focusrite Control のスナップショット機能を使用すると良いでしょう。この機能では、ミキサー全体の「スナップショット」をお使いのコンピュータに保存し、後から呼び出すことができます。

000	Focusrite Control
 Sync 	Device Settings Mixing & Routing
OUTPUTS	HARDWARE INPUTS
	UltraNova 1 X MiniNova 1 X Bass Str2 X KStation X Where shall we save it for you?
	Monitor Outputs 1-2
MUTE	DIM STEREO 12 Where: FC Snapshot Library
	Line Outputs 3-4 Playback 3-4 M S M S M S M S Analogue 5 Analogue 7-8
MUTE	SOFTWARE (DAW) PLAYBACK

現在のミキサーの設定を保存する場合には、[File] > [Save Snapshot] をクリックします。

スナップショットのセッションファイルは、*・ff 拡張子で保存されます。セッションを呼び出す際には、[File] > [Load Snapshot] をクリックするとファイルを選択するウインドウが現れるので、ファイルを保存した場所を選択し、開きます。

000		Focusrite Control		
 Sync 	•••	Choose session file		
OUTPUTS		🚟 🗸 📄 FC Snapshot Library 🗘	Q Sea	rch
Monitor Outputs 1-2 Custom Mix MUTE DIM STEREO Line Outputs 3-4 Playback 3-4 MUTE STEREO	 All My Files iCloud Drive Applications Desktop Documents Downloads Movies Music Pictures Creative Cloud Files Deleted Users 	Name Keyboard Mix - Standalone.ff	~	Date Modified Today 20:31
Line Outputs 5-6	Remote Disc		Ca	ncel Open

Focusrite Control を起動する際に表示されるダイアログボックスからも、最近保存されたセッションファイル(【Recent Snapshots】) およびプリセット(【Mix Templates】) を読み込むことができます。 本ソフトウェアを使用していく うちにこのボックスの表示が不要になった場合、【Don't show this again】をクリックすることも可能です。

新しいデフォルトのミックステンプレートを開く場合には、[New Monitor Mix] をクリックします。 Clarett 8Pre USB では、[New Monitor Mix] をクリックすると、[2 Channel Analogue] プリセットが開かれます。

インターフェース内部の設定を Focusrite Control に読み込む場合には、【Load from device】 をクリックします。 インターフェースを別のコンピュータに接続する場合などに便利です。

Device Settings ページ

Focusrite Control から操作すれば、Clarett USB のインターフェース自体のコントロールよりも多くの機能を操作できます。

これらの機能には、【Device Settings】 ページよりアクセスできます。 Clarett 8Pre USB では、このように表示されます。

• •	Focusrite Control	
Sync	Device Settings Output Routing	Focusrite
Focusrite Control 2.1.8.1406 Clarett 8Pre USB Firmware: 1209 Clarett8Pre-00000005	Analogue 1 AIR OFF	Analogue 2 Air OFF
Sample Rate Clock Source 48 kHz V Internal V Sync Status Locked S/PDIF Source RCA V	Analogue 3	Analogue 4 AIR OFF
Monitor Controls o 1-2 o 1-4 o 1-6 o All	Analogue 5 AIR OFF	Analogue 6 Air OFF
O None	Analogue 7	Analogue 8 Air OFF
O All O None	Analogue 7	Analogue 8 AIR OFF

異なる Clarett モデルを使用している場合にも、多くの機能は同一のものとなります。ただし、インターフェースのチャン ネル数が少ない分表示されるスイッチも少なくなります。

AIR

Clarett インターフェースの各入力チャンネルには、切り替え可能な AIR 機能が搭載されています。この機能では、プリ アンプの周波数特性をわずかに変更することで、Focusrite の伝統的なトランスフォーマーベースの ISA マイクプリアン プのインピーダンスとレゾナンスをエミュレートします。詳細に関しては、Clarett ユーザーガイドを参照してください。

AIR ボタンをクリックすることで、各チャンネルに対して AIR を回路内に組み込むことができます。また、AIR が各チャン ネルに選択されると本体のフロントパネルの LED が点灯します。

Inst/Line

インターフェース上のチャンネルのいくつかでは、電子楽器を直接接続することが可能です。INST を選択した場合アン バランス入力となり、ゲインとインピーダンスを変更することでエレキギターのような高インピーダンスのソース用にプリアン プを最適化します。

フロントパネルの赤色の LED で、INST モードが選択されていることが確認できます。

LINE に切り替えると、入力が標準的なバランス入力のラインレベルの信号に適するよう設定されます。

インターフェースのすべてのチャンネルは、ダイナミックもしくはコンデンサーマイクに対応しています。コンボタイプのコネ クタは、XLR プラグまたはジャックプラグのいずれかを感知し、マイクまたはラインの操作用に自動的にプリアンプの再 設定が行われます。INST 機能を持つチャンネルでは、同じコネクタを使用します。

モニターコントロール

従来型のロータリーコントロールは、マスターモニタリングボリュームを調整する際非常に便利(かつ伝統的)です。 Clarett インターフェースには、フロントパネルに **MONITOR** コントロールが備わっています。通常(デフォルトでは)、 Monitor Output 1 および 2 のレベル調整に加え、Mute および Dim の制御を行えます。

Clarett の他の出力を別のスピーカー用(ニアフィールド、LCR やサラウンド環境など)に使用する場合、ロータリーコントロール、ミュート、DIMスイッチを制御できるように割り当てることも可能です。

Monitor Contro	ls
0 1-2	
O 1-4	
O 1-6	
O All	
O None	

選択例:

- **1-2** モニター出力1と2(デフォルト設定)
- **1-4** モニター出力1と2およびライン出力3と4
- **1-6** モニター出力1と2およびライン出力3~6
- **All** モニター出力 1 と 2 およびライン出力 3 ~ 10
- None ロータリーコントロール、ミュートおよび DIM スイッチは無効。出力レベルはソフトウェアのフェーダー で制御可能。

注意: 出力 7 ~ 8 および 9 ~ 10 をモニターコントロールに割り当てると、ヘッドフォン出力と共有されているため、出力 レベルに影響します。

[Mixing & Routing] ページの Output タブでは、機器のロータリーコントロールに割り当てられた出力に対してフェー ダーのつまみが緑色になります。つまり、スクリーン上のフェーダーは操作不可となり、それらの出力レベルは機器のフ ロントパネルから調整する必要があります。ただし、スクリーン上のフェーダー位置、ミュートおよび DIM のステータスは 機器自体の操作に反映されます。

サンプルレート



Clarett USB インターフェースは、以下 6 つのいずれのサンプルレートでも動作することが可能です:44.1kHz、48 kHz、88.2 kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz。デフォルトのサンプルレートは 48kHzです。 必要に応じてサンプルレー トを選択してください。注意:176.4/192kHzのサンプルレートを使用している際、オプティカル入力は無効になります。

クロックソース Sync Focusrite Control 1.1.1.1291 Scarlett 18i20 Firmware: 1076 Scarlett18i20-00000001 Sample Rate Clock Source 48 kHz ▼ Internal ▼ Sync Status Locked **Monitor Controls** • 1-2 • 1-4 O 1-6 O All O None

互いに接続されたデジタルオーディオ機器は常に同じクロックソースを使用しなければなりません。 Clarett USB インター フェースでは、以下の3つのソースから同期することが可能です。

✓ Internal S/PDIF

- Internal 内部的に生成されたリファレンスクロック。デフォルトではこちらが選択されています。
- S/PDIF S/PDIF IN コネクタに組み込まれたクロック信号。
- ADAT OPTICAL IN コネクタに組み込まれたクロック信号。

どちらのソースを選択した場合にも、 Clarett USB のリアパネルの BNC ソケットの WORD CLOCK OUT でそのクロック 信号が有効となり、他のデジタル機器との同期が可能になります (Clarett 8Pre USB のみ)。

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関する質問がある場合は、次の Focusrite Answerbase のウェブサイトへアクセスしてください。 <u>https://support.focusrite.com/hc/en-gb/requests/new</u> このサイトでは、 多数のトラブルシューティング例を説明す る記事が掲載されています。

著作権表示と法定通知

Focusrite は登録商標です。Focusrite Controlおよび Clarett USB は、Focusrite Audio Engineering Limited の商標です。

その他全ての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。 2017 © Focusrite Audio Engineering Limited. All rights reserved.